

地域 文化 調査発表会

PROGRAM

- 開会のあいさつ 13:00
- 台湾における日本統治時代の「遺産」と記憶 13:05
- 国際交流とイベント 13:50
- 休 憩 ——
- 城下町の再発見—原田帯霞「来訪賓客簿」に見る幕末鳥取城下町の人物・天気— 14:45
- 戦後鳥取に息づくラジオドラマ 15:30
- 閉会のあいさつ 16:10

2017年1月21日(土)
開場12時30分 開会13時
とりぎん文化会館 第1会議室
入場無料・来聴歓迎



1

13:05～

台湾における日本統治時代の「遺産」と記憶

「東アジア」グループは今年度も台湾でフィールドワークを行いました。調査したのは、蓬莱米を開発した磯永吉の旧農林学校作業室や八田與一の大規模灌漑施設（烏山頭ダム）など今日の台湾にとって資産となっていると思われる日本統治時代（1895～1945年）の事業と、孔子廟など裕仁皇太子の行啓地です。日本統治時代の「遺産」がどのように伝えられているのか、台湾の人々がその時代をどのように記憶しようとしているのか、考えます。



国立成功大学のガジュマル(裕仁皇太子記念植樹)の前で

2

13:50～

国際交流とイベント

鳥取には様々な国から人々が訪れ、暮らしています。私たちはイベントに焦点をあて、国際交流について考えることにしました。イベントの規模や目的は様々ですが、人が集まる場という共通項があります。そこで、私たちはイベントにおける交流の現状と可能性について、鳥取のしゃんしゃん祭りやタイムフェスティバル、東京で行われたグローバルフェスタを調査しました。文献調査、施設の訪問、イベントの参加をもとに、考察の結果を発表します。



国際交流について考える

3

14:45～

城下町の再発見—原田帯霞『来訪賓客簿』に見る幕末鳥取城下町の人物・天気—

今回の城下町の再発見班は、『来訪賓客簿』という歴史史料をとりあげ、鳥取城下町に居住した原田帯霞家を訪れた人物や、日々の天気記録に注目します。そこから、おもに原田家を訪れた人々の特徴を検討し、また幕末鳥取の気象がおよぼす生活への影響などについて考えて見たいと思っています。さらに、今年度取り組んできた「まちあるき」などの活動についても報告します。



『来訪賓客簿』を見ながらの授業風景

4

15:30～

戦後鳥取に息づくラジオドラマ

「ラジオドラマ」グループでは、戦後まもなくNHK鳥取放送局で放送されたラジオドラマを研究対象としています。当時制作されたラジオドラマの脚本や、その他の資料をもとに、戦後の鳥取の社会や人々の暮らしについて考察し、ラジオ及びラジオドラマがどのような役割を果たしていたのかを考えていきます。当日は、昭和22年7月に放送された「マイクの旅 砂丘の巻」の作品分析や再演も試みます。



ラジオドラマの脚本撮影

鳥取大学地域学部地域文化学科地域調査成果発表会